ある日突然

女装が趣味の私、ある日、衝撃的なことが起こったのだ。まったく予期していなくて、あってはならない、いや、あり得ないことが起こったのである。

私が女装して、少し遠いが、広くて景色のいい公園にドライブに行って、写真を撮って帰ってきたときのことだった。

自分の駐車スペースに車を停めて降りたのだが、私の部屋の前で男の人が立っているのが見えた。最初は不審者かと思って恐怖を感じたが、その人物は、なんと……兄だった。

ここのアパートの住所は親には教えてあった。でもほとんど親が来るこ

とはなかったのだ。安心していたら、その代わりに兄が来てしまったようだった。なにやら手に白い袋をぶら下げている。

こんな格好をしているので、どうしようかと立ち尽くしていると、兄は振り返って私に気づいてしまったのだ。もう逃げることもできずに、私がその場で狼狽えていると、向こうは私のことをじっと見つめてきて、弟だと判ったようだった。

実は私は地毛を伸ばしていて、ボーイッシュだがショートヘアの髪型なのだ。近くの美容室でカットしてもらっているのだが、それで普段は男として会社に行っている。ちょっと髪の長い男子という感じで通っているが、女装をするときにはショートヘアの女の子になる。

実家にいるときも髪は長めだった。いくらメイクをしているとはいえ、

兄は私だと判ってしまったらしい。ものすごく気まずい。

「え……ノブ？」

私の男名は信人（のぶと）という。兄は昔から私のことを「ノブ」と呼ぶのだ。私は呆然としてしまった。まさか連絡なしに兄が来るなんて思ってもみなかったのだ。親も来ないのになぜ……という思いでいっぱいだった。

女装していることなど、もちろん内緒にしている。そんなこと言えるわけがない。どうしていいのか分からない私は俯くばかりだった。「ノブ」と呼ばれて、「違います」と言えばよかったのだが、すでにアパートの部屋番号はばれているし、逃げようがなかった。

兄は面白そうに私に近づいてきて「お前、なにやってんだよ」と、からかうように言ったのだ。いちばん知られたくない人に知られたと思い、お

ろおろしてしまった。